

学術講演会のご案内

爽秋の候、皆様方におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平成 29 年度学術講演会を下記日程にて開催いたしますので、万障お繰り合わせの上ご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

日時・平成 29 年 12 月 2 日（土）19：00～21：00（学術講演会）

場所：JR ホテルクレメント高松

演題：最近の歯科治療における注意点 ートラブル、創傷処置、顎骨壊死、抗凝固薬などー

演者：徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔外科学分野 宮本 洋二先生

《抄録》 時代とともに患者さんが歯科医療に求める要求は高くなり、いろいろなトラブル事例が増加しています。しかし、個人の歯科医院ではそのような症例に遭遇する機会は少なく、実際に遭遇した時には、慌ててしまい、適切に対処できないことも多いと思います。緊急事態に備えて、どのような併発症、トラブルが起こりうるのかを知っておくことは重要です。私共に紹介された症例を共有して頂き、それらに対する対処法・予防法について私の考えを述べさせていただきます。

さらに、以前は当たり前だと信じられていた治療法や考え方が 180 度変わったことも多数あります。たとえば、現在では、消毒液で創を消毒することはほとんどありません。それでは、顔面の外傷や擦過創どのように処置すべきなのかご存知ですか。さらに、ビスフォスフォネート製剤による顎骨壊死はよく知られるようになりましたが、デノスマブやプラリアなどの抗 RANKL 抗体薬や抗がん剤とよく併用されるアバスチンやスーテントなどの血管新生阻害薬でも顎骨壊死が発症することは未だよく知られていません。それを知らずに、スケーリングや抜歯して顎骨壊死が生じればトラブルにもなりかねません。また、ワルファリンやアスピリンを服用中の患者では薬剤を中止せずに抜歯を行うことが認知されています。しかし、現在ではワルファリンに代わる新規経口抗凝固薬（POAC）を使用している患者さんが増加しています。NOAC はワルファリンとは全く異なる薬物動態を示すため、ワルファリンと同じように考えて抜歯すれば出血が止まらないこともあります。時間が許す限り、これらの最近の歯科治療における注意点についてお話しできればと考えています。

演者略歴：昭和 58 年 徳島大学歯学部卒業 昭和 62 年 徳島大学大学院修了、歯学博士 昭和 62 年 徳島大学助手 平成 4 年 徳島大学講師 平成 15 年 秋田大学教授 平成 19 年 徳島大学大学院教授

尚、講演時に 来年移転する高松市民病院（高松市立みんなの病院）に新設される歯科口腔外科についての説明も予定しています。学術講演会はオープン形式にしますので、同窓会以外の方も是非ご参加ください。

準備の都合上 11/5 までにご返事くださいますようお願い申し上げます。

FAX 番号 087-815-2858 （石丸歯科医院 石丸まで）

《FAX 送信用紙》

平成 29 年 12 月 2 日（土）午後 7 時～9 時 学術講演会 並びに 新高松市民病院説明会

・出席

・欠席

氏名： _____ （ 歯科衛生士・歯科技工士 ）